

第3回介類養殖生産者会議の開催

與那嶺盛次・城間一仁

1. 目的

当会議は、平成13年度から養殖研究グループ等を対象にトコブシやシラヒゲウニの種苗生産を含む養殖技術、シャコガイ類の養殖技術についての情報交換を行って養殖生産者の技術向上を目的に開催している。

2. 場所及び実施日時

平成16年3月18日 沖縄市産業交流センター

3. 内容

参加者は35名でした。会議では、まずはじめにトコブシの養殖や種苗生産状況について伊是名村漁協や伊江漁協、北谷町漁協魚介藻類生産部会、糸満漁協介類養殖研究会等の事例が、水産試験場普及センターから報告され、その後今後の計画等について話し合った。トコブシの種苗生産では、約100万個の稚貝を波板からの取り上げに成功したところもあり県内だけでなく台湾への種苗出荷も予定されている。トコブシの種苗生産技術については、定着したと思われるので今後これらの種苗を使用して成貝出荷に力を入れていく必要がある。現在、1kg当たり3,500円で販売されており需要に追いつかない状態である。

続いて糸満漁協介類養殖研究会や具志川市磯根資源活用研究会が実施しているシラヒゲウニの種苗生産や配合飼料を使用した養殖試験、シャコガイ類の海底設置ゲージや筏での小割式養殖試験が報告された。シラヒゲウニの種苗生産では約2万個の稚貝を波板からの取り上げに糸満漁協介類養殖研究会は成功した。配合飼料を使用した養殖では仕上げに海藻が必要なことから、ホンダワラ類の豊富な東海岸や大量培養で

きるオゴノリ等を使用することが検討された。

シャコガイ類の養殖では、種苗の安定供給、食害対策や養殖管理の徹底などの必要性が指摘された。なお、養殖籠の藻を除去する方法としてシラヒゲウニやアイゴ類を使用することが有効であるという報告があった。また、シャコガイ類については、養殖状況調査や出荷記録表の実績に基づいて種苗配布を検討するため、普及センターから記帳が重要になるとの報告があった。

今後の会議の持ち方についても話し合った。各養殖グループ等の事前アンケート調査を実施することや水産試験場で実施している養殖・種苗生産試験等を報告してもらい情報交換をすることになった。平成15年9月の漁業権切り替えでは、トコブシ、シラヒゲウニ、シャコガイ類の養殖漁業権が多数の漁協や地区で取得される。そのため、上記の種類について、今後とも介類養殖生産者会議で取り上げ養殖技術向上等を図り養殖業として定着させたいと考えています。



第3回介類養殖生産者会議の様子